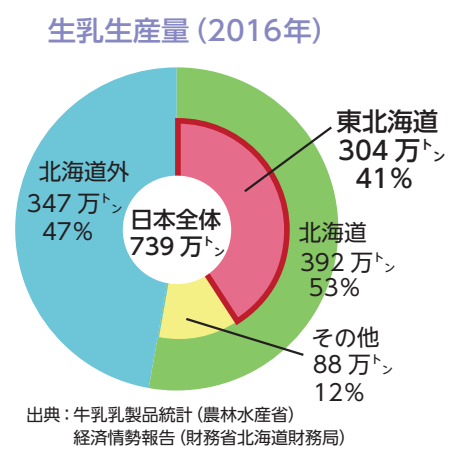


日本の食を支える釧路港 道東の物流拠点から 「世界の北海道」の国際貿易・交流拠点へ

わが国有数の 食料供給地域を支える港

北海道の太平洋側東部に位置する重要港湾「釧路港」は、北海道総面積の43%に当たる道東の物流拠点として重要な役割を担っています。また、釧路港を利用する背後圏の道東地域は、日本の生乳生産量の40%以上を生産しており、わが国有数の食料供給地域を支える港湾としても重要な役割を担っています。



釧路港は、東港区と西港区に分かれており、東港区は日本有数の水産物の水揚・流通拠点であるとともに、イベントなどを通じた交流拠点として利用されています。一方、西港区は製造業や物流の拠点として利用されており、酪農、製紙業などの基幹産業に関連するバルク貨物やシヤースィコンテナなどのユニットロード貨物が取り扱われています。

西港区は大型バルク船に 対応するため港湾整備に着手

平成23年、国土交通省は、鉄鉱石、石炭、穀物の安価かつ安定的な輸送を実現するため、国内10港を貨物の輸入拠点とする「国際バルク戦略港湾」として選定しました。釧路港は穀物

西港区には四つの埠頭があり、第1埠頭は木材チップ、石油・LNG (液化天然ガス)、紙・パルプ (RORO (ローロー) 船利用) など、第2埠頭は飼料原料 (穀物や動植物性製造飼料) や生乳 (RORO 船利用)、第3埠頭は外貿コンテナ貨物や化学肥料、第4埠頭は石炭や循環資源 (金属くず) などを取り扱っています。

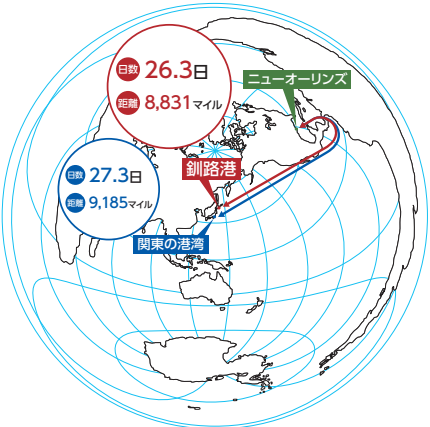
特に第2埠頭では、牛の飼料原料の主であるトウモロコシを約70万トン、副原料なども合わせると約170万トン (平成27年) の穀物を受け入れ、飼料工場で配合した後、酪農・畜産農家へ配送しています。また、道東地域で生産される生乳は年間304万トン (牛乳1レパックに換算して46万本/日) で、RORO船で首都圏へ運ばれ、乳業メーカーでパック詰めされ、搾乳後最短で3日目に店頭に並びます。

の国際バルク戦略港湾に選定され、大型バルク船

の入港に対応する国際物流ターミナル整備や企業間の連携による海上輸送の共同化の取り組みのほか、民間事業者によるターミナルの効率的な運営、高能率な荷役機械の整備、サイロの増設、新たな飼料工場の用地取得など官民連携による取り組みが着々と進んでいます。

トウモロコシは、主に北米のニューオーリンズ港からパナマ運河を通して運ばれます。現在、パナマックス船 (6〜8万載貨重量トン) は、岸壁の水深不足のため、減載入港による非効

北米至近の優位性



トウモロコシの主な輸入先であるニューオーリンズ港から至近の位置。関東の港湾に比べ、釧路港は1日程度の運航日数の短縮が可能であり、海上輸送コストの削減を図ることができる。



毎日新鮮な生乳を首都圏へ運ぶ RORO 船

目指すは「世界の北海道」
～第8期北海道総合開発計画始動～



釧路商工会議所
伊関 義和 運輸交通部長



釧路市水産港湾空港部
梶 光貴 次長

率な輸送を強いられています。

国際物流ターミナルの整備効果として、釧路市水産港湾空港部の梶光貴次長は「本事業により、北米至近の釧路港をファーストポート（入国港）とした穀物の大量一括輸入が可能



平成29年度完成予定の西港区第2埠頭の係留施設
(水深14m、延長300m)

となり、釧路港から東日本の各港湾への複数港寄りの配船が実現します。東日本における穀物の効率的な海上輸送網を形成し、穀物の安定的かつ安価な供給、関連産業の国際競争力強化に寄与できると考えています」と話します。

また、港は海上輸送と陸上輸送の結節点で

す。釧路商工会議所の伊関義和運輸交通部長は、「根室方面、オホーツク方面とは高速道路で結ばれていません。港湾を生かすためには、高規格幹線道路はもちろんのこと、各農家に飼料を届ける一般道の整備も必要」と話します。

東港区は海に親しむ親水空間と観光拠点の形成を目指す

世界とつながり、大きく変容する釧路港。その基底には、平成23年に策定された「釧路港長期構想」があります。この構想の目標年次は平成50年代前半。釧路港の目指すべき姿として「外内貿物流拠点」「エネルギー基地」「国際交流拠点」「防災拠点」の4項目、実現する導入機能として7項目を掲げています。

導入機能の一つとして「臨海部における良好な景観の形成や親水空間の確保」があります。

「東港区には複合商業・観光施設フィッシャーマンズMOO(ムー)やEGG(エッグ)・緑地空間」といった憩いの場と、耐震旅客船岸壁が隣接していることから、今後、観光拠点と市民のための親水空間の場を形成していきたい。将来的には、フェリー航路の受入れなども視野に入れながら、北極海クルーズ船の基地を目指すなど、釧路港の地理的特徴を生かすことを考えています(伊関部長)。

釧路市は、阿寒摩周国立公園および釧路湿原国立公園の二つの国立公園を有しており、平成28年1月には観光庁より、訪日外国人旅行者を地方へ誘客するモデルケースの形成を目指す「観光立国ショーケース」の選定を受ける

など、国際観光都市に向けた新たな一歩を踏み出したところ。東港区での大型クルーズ船やフェリーの受け入れ環境の充実に取り組んでいきたいと考えています(梶次長)。

国土交通省が策定した第8期目となる北海道総合開発計画では、北海道の強みである「食」と「観光」を戦略的産業として位置付け、食と観光を担う「生産空間」を支え「世界の北海道」を目指すとしています。

梶次長は「釧路港における国際バルク戦略港湾とクルーズ船構想は、まさに北海道総合開発計画に位置付ける戦略的な産業にマッチする取り組みです。釧路港長期構想などに基づいて、北海道総合開発計画の推進や、地域の発展に寄与していきたい」と語り、伊関部長は「世界へ発信できる食料供給基地としての北海道を支える釧路港をアピールしていきたい」と意気込みを語ります。

道東の物流拠点から「世界の北海道」の国際貿易・交流拠点へ。釧路港へ期待される役割はますます大きなものとなっています。



クルーズ船フォーレンダム寄港時の市民によるお見送りの光景

※1 穀物、鉄鉱石、石炭、油類、木材などのように、包装されずにそのまま船積みされる貨物。ばら積み貨物ともいう。

※2 動力を持たない被牽引車。

※3 荷役の機械化・省力化・迅速化を図るため、「コンテナ、シャーシなどの容器を用いて、複数の貨物を一つにまとめた貨物」。

※4 船の中にトラックやトレーラーなどが自走して乗り込み、貨物の積み降ろしが行える貨物船。